

歯科衛生士口演

(F会場)

F会場

HO-01~02



10月8日(土) F会場 9:00~9:20

HO-01

材質の異なる刷毛の歯間ブラシのプラーク除去効果

3102

宮崎 晶子

キーワード：歯間ブラシ、プラーク除去率、材質

【目的】本研究は、歯間ブラシの刷毛に従来の歯間ブラシの刷毛に最も多いナイロン（以下、NY）と、ポリブチレンテレフタレート（以下、PBT）を用い、材質の違いによるプラーク除去効果を比較検討した。

【材料と方法】歯間ブラシのサイズはM、Sとし、刷毛にはNYとPBTを使用した。被験部位は上顎右側第二小臼歯と第一大臼歯の歯間2歯面とした。刷掃条件はストローク10mm、5往復とし、歯間ブラシを被験歯に対し垂直方向から挿入した。また、環境条件として乾燥した状態（以下、Dry）と、口腔内での使用を想定して歯間ブラシを90秒37℃の恒温水槽に浸漬した状態（以下、Wet）で、実験を行った。各試験は同一条件で繰り返し6回行い、画像解析によりプラーク除去率を算出した。

【結果】プラーク除去率は、Dryの小臼歯において、M-NY39.4%、PBT43.3%、S-NY36.9%、PBT35.8%、大臼歯ではM-NY27.1%、PBT31.3%、S-NY25.2%、PBT24.5%であり、有意な差は認められなかった。Wet-小臼歯においては、M-NY31.6%、PBT42.3%、S-NY31.4%、PBT33.6%、大臼歯ではM-NY26.8%、PBT31.2%、S-NY22.6%、PBT23.6%であり、Mにおいて小臼歯、大臼歯ともにNYよりPBTのほうがプラーク除去率が高く、有意な差が認められた。

【結論】乾燥した状態ではNYとPBTの歯間ブラシのプラーク除去率に差はないが、口腔内を想定した湿潤状態ではNYのプラーク除去率が低下した。これはナイロンが吸水性を持つという特性が影響したと思われる。

HO-02

口腔乾燥を伴う重度慢性歯周炎の一症例

2504

寺西 香織

キーワード：口呼吸、開咬、口腔乾燥

【はじめに】口腔乾燥は、口腔内の物理的・化学的洗浄作用低下によるバイオフィーム形成や、唾液タンパクの機能低下による歯周組織の易感染・易炎症性に影響を及ぼし、歯周病を増悪に導く。さらに、唾液緩衝能の低下や基質浄化半減期の変化は、う蝕に罹患しやすく、プラークが停滞しやすい環境に陥らせる。今回、口腔乾燥が存在した患者に、様々な対応を行い、歯周基本治療のみで改善した重度慢性歯周炎の一症例を報告する。

【検査所見】43歳女性。初診日2013年11月12日。主訴：歯ぐきの痛み。口腔内所見：開咬・反対咬合。前歯部歯肉の乾燥・紅斑・腫脹。PCR値：69.6%。BOP率：68.5%。PPD：2～8mm。唾液テスト：陽性。

全身疾患：多発性硬化症・リンパ浮腫・アレルギー。

口渇の副作用を伴う服用薬：アレロック・ラシックス。診断：重度慢性歯周炎。

【治療経過】炎症症状の強い上顎前歯は、特に徹底した歯肉縁上のプラークコントロールを行い、BOPの改善に努めた。同時に、不適合修復物の修正やう蝕治療を行い、口呼吸の改善と口腔内の保湿に努め、清掃しやすい環境作りと口腔乾燥への対処を行った。初診から9カ月後、PPD3mm以下BOP率0%になった為、歯周基本治療のみでSPTへ移行した。

【考察・まとめ】口腔乾燥は、超高齢社会の現在、非常に多くみられる歯周病増悪に関与する因子である。今回、特に口腔乾燥への対処に努め、歯周基本治療のみで歯周組織が改善した。しかし、内服薬の副作用もある為、今後も注意が必要である。歯科衛生士として、患者が自覚しにくい口腔乾燥を早期に発見し、それぞれの患者に応じた対応をしていくことが重要であると考えられる。